

# コミュニティ・スクール情報

2021.11.1

第2回三川町学校運営協議会中学校部会が10月25日（月）三川中学校において開催されました。授業や合唱練習の参観を行いながら生徒たちの様子を見て回りました。協議会では、「校則を通して何を育てるか？」をテーマに話し合いを行いました。

## 【 小関 明三川中学校長からの学校運営状況の説明 】

### 1. コロナ禍の学校教育の課題

#### (1) 学び（学力）の保障

休業日の発生や授業形態の変更による学びの保障について

「全国学習状況・学力調査」の結果

国語 全国<山形県<三川中 数学 山形県<全国<三川中

「標準学力検査（NRT）」の結果

5教科ともこの5年間で最高の偏差値でした。

安定した学校生活状況や個を大切にした教科指導の成果がみられる。

#### (2) 生徒の心のケア

「全国学習状況・生徒質問紙」から心配される課題2点（県平均-10ポイント）

##### ① 『生活リズムづくりや登校したくなる学校づくり』の項目で、ポイントが低くなった点

- ・朝食を毎日食べている。
- ・毎日、同じくらいの時間に起きる。
- ・学校に行くのが楽しい。
- ・友だちと協力するのが楽しい。
- ・自分にはよいところがある。

##### ② 『地域の人材育成や学びを支える力の育成』の項目で、ポイントが低くなった点

- ・地域の行事に参加している。
- ・地域や社会のために何をすべきか考えることがある。
- ・将来の夢や目標を持っている。
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。

「学校が楽しい」のポイントが低くなったことは課題と受け止めている。1期（4月～7月）の『生徒の声』調査でも、1年生は0%であったが、2年生22% 3年生13%が「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」と回答している。コロナ禍で友だち同士の会話の制限や行動制限は、生徒たちの心に少なからず影響していると感じる。全国的に不登校生徒の増加や自死の増加が見られるので、一層、「魅力ある学校づくり」を推進したい。そのために、生徒の『居場所づくり』・『絆づくり』に取り組み、「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がわかる」という生徒の割合を増やしたい。幸いに、ここ数年、ご家庭の協力もあり、欠席数は減少傾向にある。

#### (3) 行事・活動の保障

一時、コロナ禍で生徒たちが楽しみにしていた学校行事にも制限がかかった。今年度は、形態等を変えながらも実施できている。学校行事も生徒の『居場所づくり』『絆づくり』にはかかせない。

#### (4) ICTの活用

ICTを使った授業では、生徒同士の学び合い、複数教員による指導などで『主体的に取り組む授業』『わかる授業』が行われ始めている。コロナ禍で進んだICT環境の整備に応じた授業のあり方を職員と共に考えていきたい。

## 【 熟議 「校則を通して何を育てるか」 】

### ◇校則について思うこと

- ・三川中には、「校則」という文面がない。「生活のきまり」が校則にあたるとしたら、生徒たちにとって息苦しいのではないか。
- ・他校の「校則」はどうなっているのか？
- ・三川中の「生活のきまり」を見ると、そんなに厳しいという感じはしない。今の時代、仕方ないと思う面もあるが、あえて必要なのかも感じる。「校則」で何かを育てるというものでもない。一般的な社会のルールを中学生が理解できるようになればそれでよい。
- ・学校は勉強する場所であることを大切に、制服など、家庭の格差に気を配ったものであればよい。(集団の平等性を守る)
- ・生徒たちのアンケート結果のなかで、「校則」がなぜ必要かの間に、「校則がないと学校が荒れてしまうから」の回答が多いことに驚いている。(集団の危機を回避する意識)
- ・田川地区の中学生は、保守的などころが強い。生徒たちに判断を委ねると、自分たちで厳しくしていく傾向があり、地域性もあってこの結果は予想される。(集団の秩序を守る意識)
- ・「荒れてしまう」ということを、子どもたちがどうとらえているか聞いてみたい。
- ・「個性を伸ばすべき」という考えが多くなるなかで「とがった生徒」がはじかれた時があった。校則で縛り、個性を出せないのではダメなのではないか。子どもが納得し、時代にあわせて校則を考えていくべきだと感じる。
- ・「私たちの約束」となっているが、校則は誰が作ったかといえば、大人や教師の立場で作ったものと言える。今は、子どもたちが考えられるようになってきているが、子どもたちに聞けば、きまりは必要と答える。社会に従順である。子どもが本当にこれって正しいのと問いかけるようになること、社会を自分たちが作っていかうと考えることが大切である。
- ・「私たちの約束」が田川地区に定着した頃は、荒れていた頃から抜け出すため、各学校の生徒指導者が共通認識をもつためにつくられたもので、あの頃は、心の揺れが服装に現れた。今の生徒たちにあったきまりになってもよい。
- ・フリーにしていいいとは思わない。必要最低限、社会に出て行ったとき必要とされるきまり。
- ・親の立場から学校が決めているきまりだから守らせたいと思うが、子どもが理解していれば守る。いないと親の指導も通りにくい。靴下の色に声をあげたことはよかった。
- ・白の靴下を替えていただいたことはよかった。洗濯などたすかる。無地にワンポイントなかなか探すのも大変なことがある。目立たない色などにしてほしい、
- ・学校では、高校入試時の服装を基準にして考えさせている。指導の先生でも意見が異なる場合があるので細かくなりがちとなる。生徒に質問されたら、結論を言わず持ち帰って検討するようにしている。
- ・校則はシンプルに、儀式や行事の服装はTPOを考えさせる。

### ◇どのような校則がよいのだろうか？

- ・自分たちで確認し合えるきまり。自分たちが納得したきまり。
- ・中学生であれば分かるような文章を抜いてすっきりする。

三川中では、「私たちの約束」(校則)を生徒たちの力を信じながら改善しようとしています。学校は、段階を踏み、生徒たちに校則を考える素地を構築しながら進めるとのことです。本協議会も見守っていききたいものです。

問1 あなたは、普段、校則を意識して生活していますか？

	1年	2年	3年	全体	(人)
A とても意識して生活している	8	4	9	21	
B 意識している方だと思う	37	40	40	117	
C あまり意識することはない	11	13	15	39	
D まったく意識したことはない	1	1	1	3	

問2 三川中学校の「校則」が、厳しいと感じたことはありますか？

	1年	2年	3年	全体
A すごく感じる	1	1	5	7
B 感じる	9	17	21	47
C あまり感じない	32	34	28	94
D 感じない	15	6	10	31

厳しいと感じていること

頭髪関係（男子のツブブロック許可 女子の前髪、結び方、ゴム色）

1年 8件 2年 11件 3年 18件

服装関係

（運動着登校などの期間、下着の色制限、靴下の色、コート等の色、ひざ掛け）

1年 3件 2年 11件 3年 17件

その他（ゲームセンターへの出入り、汗拭きシート、ヘルメット、キーフォルダー）

1年 3件 2年 2件 3年 6件

問3 「校則」があるのはなぜだと思うか？

	1年	2年	3年	全体
A 集団生活なので、きまりが必要	23	26	31	80
B 個人の自由を制限するため	4	6	7	17
C 他への迷惑をかけないため	22	25	24	71
D 社会にもきまりがあるから当然	19	22	18	59
E 様々な考えがあり、基準として	11	9	11	31
F ルールを守る、訓練	10	10	9	29
G 学校が荒れないため	25	18	26	69

問4 三川中の校則で変えられたらいいなと思うこと？

男子より女子に厳しい（服装・頭髪）平等感なし。

自分たちで確認し合えるきまりにしたい。